社会科における思考力・判断力・表現力とその育成

「生きる力」の理念の実現に向けて，「基礎的・基本的な知識・技能の習得」とそれらの活用を通した「思考力・判断力・表現力等の育成」が求められている。それでは，社会科で育成する思考力・判断力・表現力とはどのような力だろうか，それはどのようにして育成することができるのだろうか。

1　社会科で育成する思考力・判断力・表現力とは

ここで検討が必要なのは，社会科だからこそ育成することが求められる思考力・判断力・表現力であろう。このような思考力・判断力・表現力とは，「社会的事象や社会の問題を読み解く力」※であり，それは児童・生徒が社会的事象や問題に対して以下のように問いかけ，追究していく活動の中で育っていく力だと考えられる。

学習活動	能　力
社会的事象や問題に対して「どのようになっているか」と問いかけ，資料等から必要な情報を読み取り，知ったことをまとめる	観察・資料活用力，表現力
社会的事象や問題に対して「なぜか」と問いかけ，事象相互の関係やその意味・意義を考えて，わかったことをまとめる	思考力，表現力
社会的事象や問題に対して「どうしたらよいか」と問い，問題解決の方法や方策を判断して，その結果をまとめる	判断力，表現力

児童・生徒が社会的事象や社会の問題を読み解くための基盤となる力は観察・資料活用力である。そして観察・資料活用力は，社会的事象に対して「どのようになっているか（いつ，どこで，だれが，何を，どのように，どのような）」と問いかけ，観察したり地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めたりして，それらを読み取る活動の中で育つ力である。思考力は，社会的事象に対して「なぜか」「どうしてか」と問い，事象相互の関係（目的と手段，条件と結果，原因と結果）や事象の社会的意味や歴史的意義を追究する過程で育つ力である。判断力は，簡単には答えが出ないような問題に対して，「善いか，悪いか」「どうしたらよいか」「もっとよい方法はないか」と問い，望ましい解決方法を追究する過程で育つ力である。また表現力は，資料から必要な情報を読み取った結果や思考・判断した結果をまとめたりする中で育つ力である。

2　どのようにして思考力・判断力・表現力を育成するか

思考力・判断力・表現力といった能力は，実際に子どもが授業の中で思考し，判断し，その過程や結果を表現しなければ育たない力であろう。そして，思考力・判断力・表現力を育てる社会科授業には，「どのようになっているか」「なぜか」「どうしたらよいか」といった問いが不可欠であり，これらの問いの答えを児童・生徒が相互にかかわり合いながら追究していくことが必要である。

一方，このような力を育成するためには，系統的・継続的な指導がより一層求められる。上述したように，思考力・判断力・表現力を育成するためには「なぜか」「どうしたらよいか」といった問いが不可欠であった。このことから，思考力・判断力・表現力の前提となる力として，問いを発見する力（＝問題発見力）が想定できる。小学校3年生から始まる社会科において思考力・判断力・表現力を育成するためには，例えば小学校１・２年生に位置づけられている生活科において児童の問題発見力を育成しておくことが必要であろう。また，児童・生徒の探究的な学習を重視する総合的な学習の時間においても問題発見力は学習の基盤となる力であり，社会科と相互に関連付けた継続的な指導が求められる。

※小原友行編著『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン』明治図書，2009

（共同研究者：島根大学教育学部初等教育開発講座　加藤　寿朗）